

# 「陸・海・空・宇の交通運輸を支える」

担当教員名 北川 徹哉

## コース概要

|      |                        |
|------|------------------------|
| 日程   | 2018年8月30日、31日、9月3日、4日 |
| 場所   | 東京、茨城、千葉               |
| 参加人数 | 25名                    |

## コースのねらい

社会と経済の基幹である陸上、海上、航空の交通運輸を支える現場、そして地上と宇宙とを結ぶ重要施設を訪れます。業務の魅力と重責を肌で感じましょう。

## 内容

行程1日目は、まず、竹芝小型船ターミナルより新東京丸に乗船し、東京港の施設を海上で案内していただきました。新東京丸は東京都港湾局が所有する視察船であり、世界各国からの要人を案内するときにも使用されます。船内は立派な海上会議室であり、東京港の歴史や施設さらにはゴミ処理・埋立までも、わかりやすい解説により勉強することができました。我が国は海洋国家であり、海上物流とそれを支える港湾設備が高度に発達してきたことを改めて実感した東京港一周の船旅でした。新東京丸を下船すると、ただちに浜松町駅へ向かい、東京モノレールに乗車して天空橋駅にて下車し、ヤマト運輸の羽田クロノゲートを訪れました。いわゆるクロネコヤマト宅急便の国内・国際拠点であり、膨大な数の荷物が途切れることなく流れ、様々なセンサーとコンピュータ制御によって適切に仕分けされてゆく様子は「いつまで眺めていても飽きない」と思うほどでした。また、近年の宅配便の発達、ならびに更なる付加価値の創造へ向けた事業展開も学ぶことができました。ややタイトなスケジュールを終えて心地よい疲れの中、夕日を見ながらの帰宅となりました。

行程2日目は筑波宇宙センターをバスで見学しました。国際宇宙ステーションでの生活を想定した閉鎖環境や低圧環境への宇宙飛行士の適応訓練設備などを見ることができました。とくに、国際宇宙ステーションの一部である「きぼう」の運用管制室では、今この瞬間の国際宇宙ステーションの様子が映し出されている大きなスクリーンとコンピュータ群に学生は圧倒され



新東京丸での東京港の視察



羽田クロノゲートの視察



筑波宇宙センターの視察







日本航空機体整備工場の視察



成田国際空港の視察

ていました。また、地上から 24 時間体制で「きぼう」の運用を支えている管制官の働きぶりは感動的でした。撮影等は一切禁止されているため、スマホやカメラなどは一旦預けることが義務づけられ、宇宙開発は機密とセキュリティの塊であるということを実感しました。

行程 3 日目は羽田空港の一面にある日本航空機体整備工場を訪問しました。広大なドックに入ると複数の機体が整備中でした。整備士の方々が旅客機の各部で慎重に作業をしており、安全で円滑な運航と乗客の命にかかわる重責が伝わってきました。旅客機をこれほど近くで、ほぼ真下から見る機会はありません。また、ジェットエンジンが分解整備されていたり、すぐ外の滑走路では旅客機が轟音とともに離発着しているなど迫力満点でした。

行程 4 日目は、成田国際空港を訪れ、2 名のガイドさんの案内で視察しました。学生は、第一ターミナルの屋上で滑走路全体を見わたしながら聞いた説明の中で、滑走路や誘導路の識別記号番号の意味が印象に残ったようです。国際空港ならではの各国の文化に配慮された施設にも感銘を受けていました。空港の業務の多くを学ぶことができ、また、成田国際空港の建設時の闘争の爪痕を見ることもできました。第三ターミナル（LCC 専用）へは行かず、第一と第二のターミナルのみを徒歩とバスで回りましたが体力勝負の視察となり、終了時には学生は足が棒のようになったと言っていました。

## 学習を終えて

「東京港でのコンテナの多さ、埠頭や船舶の大きさに驚くと同時に、東京港の重要さが実感できました。」(1 年女性)「宅急便ネットワークが地球規模になっていることや付加価値として様々なサービスを提供していることがわかりました。」(1 年女性)「筑波宇宙センターへの訪問を一番楽しみにしていました。見るもの聞くものほとんどが初めてのものばかりでお腹一杯になりました。」(2 年女性)「JAL 機体整備工場で働いている人は皆とても生き生きとしていて、誇りを持って働いているように見えました。自分も自分なりに誇りを持てる職業に就けるよう今を努力したい。」(1 年男性)「将来は空港で働きたいので、CA やグランドスタッフが働いている姿を見て憧れを持ちました。」(1 年女性)